

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所として		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の発達に合わせた訪問支援の提供	一人ひとりに合わせた支援ツールを持参し、発達に必要な課題を提供。	発達支援で見られる姿を踏まえて、訪問先施設でも提供できるように準備していく。
2	利用児童が置かれている状況を踏まえた支援の提供	訪問先施設での様子に合わせて、集団参加の時間と個別対応の時間を提案。また、環境調整が必要な際にも提案している。	訪問先施設の理念や方針の理解を深め、訪問支援者としてのスキルを高めていく。
3	専門的な知識をもった職員での訪問支援体制	発達支援を兼務しているため、発達の特性に対する理解や支援スキルがある。	研修を受講したり、訪問支援の経験を重ねたりして、スキルを高めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援の実績が少ない。	開所して間もない。	来年度以降も継続して運営し、実績を積んでいく。
2	訪問先施設が少ないことで、訪問先の理念や方針の理解が少ない。	発達支援の視点で物事を考えてしまうため、訪問先施設への理解が低くなってしまっている。	訪問先施設の置かれている状況を理解し、理念や方針を尊重した上で支援提供する。
3	小学校での訪問支援内容	小学校(担任による)との考え方の相違	事業所単体での解決は難しいと考えるため、自立支援協議会(こども部会)などで、組織的に検討する必要がある。